

リフレクション

2024年10月26日 オンライン

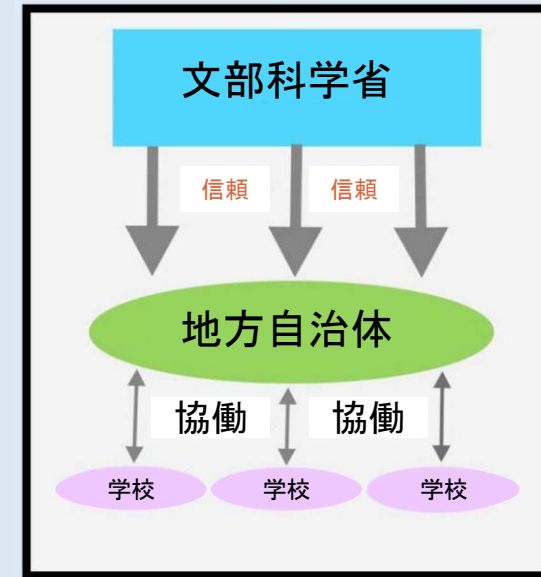
持続可能な開発のための教育(ESD)の日本における概念と過程を学びました。ESDの設計は持続可能な開発目標(SDGs)に対応します。この概念を日本全国の学校教育課程に取り入れるべく、ユネスコスクール(ASPnet スクール)プロジェクトを通じて取り組んでおり、現在、1,090校が認定されています。(情報:2024年3月)

2024年11月5日～11日 広島

(1) 地方への権限委譲:日本の文部科学省(MEXT)は、各都市の地方自治体に学校と連携して教育運営をしています。この取り組みにより、文部科学省と地方自治体との間で効果的な協力と良好な関係が生まれました。

(2) 自己と社会への責任の訓練:小学校から始まり、生徒は自分自身と級友のためにさまざまな役割と責任を担う訓練を受けます。これには、昼食当番を交代で行ったり、学校内のさまざまな場所を掃除したりすることも含まれています。

(3) 社会に備えるための生活スキルの訓練:各学校では、社会で他者と交流するための基本的な生活能力を築くために、生徒の規律や行動に重要視します。全員が規則を認識し、一貫して守ることが求められます。例えば、約束の時間に遅れずに出席したり、クラスメートや教師と適切にコミュニケーションすることが含まれます。



アクションプラン

“SDGsが学校にやって来る”



メンバー	目標	活動	評価	日程
2024年の日本で行われる「第10回年次国際教育交流プログラム」の参加者9名（ディレクター2名、教員7名）	9つの参加校の教員と生徒がSDGsの基本的な概念に親しみ、理解できるようにするため。（タイの学校多くはまだ「SDGs」という言葉に馴染みがないから）	このボードコンペティションは、プロジェクトに参加する9校からの知識を学び合うことが目的です。各ボードのサイズは少なくとも120 x 120 cm以上で作成し、各学校におけるSDGsに関する基本情報を紹介します。	9校から提出されたボードの写真を基に、プロジェクトメンバーのLINEグループチャットで決定が行われます。審査員5名によって決定が下されます。審査員は地域の教育副部長、外国情勢局の責任者、国際関係の専門家、およびACCUからの代表2名で構成されます。	2025年1月1日～31日：ボードを設置し、作業の画像をグループのLINEチャットに送信する。 2025年2月1日～15日：結果を確定し、投票を行い、グループ内で結果を反映させ、活動の概要をまとめる。